



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学の教育学習支援における連携事例
Author(s)	鈴木, 宏子
Relation	新潟大学附属図書館セミナー「ラーニング・ commonsの明日を紡ぐ」. 2013年11月19日. 新潟大学中央図書館ライブラリーホール (新潟市).
Issue Date	2013-11-19
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/53667
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	conference presentation
File Information	suzuki.pdf





北海道大学

北海道大学の教育学習支援 における連携事例

北海道大学附属図書館
利用支援課長
鈴木宏子

新潟大学附属図書館セミナー
「ラーニング・コモンズの明日を紡ぐ」
2013.11.19(Tue)

本日の内容

1. 北大図書館の連携事例の紹介

2. 連携に必要なこと

3. 連携の先に目指すもの



1. 北大図書館の連携事例の紹介



1-1. 北海道大学附属図書館の紹介

北図書館：

主な利用者：1・2年次学部生

周辺部局：

工・医歯薬・獣医学部
高等教育推進機構、学務部、
国際本部
創成研究機構（北キャンパス）

本館：

主な利用者：院生・学部生・教員

周辺部局：

文・法・経・教育学部
農・理学部
事務局



1-1. 北海道大学附属図書館の紹介



本館：

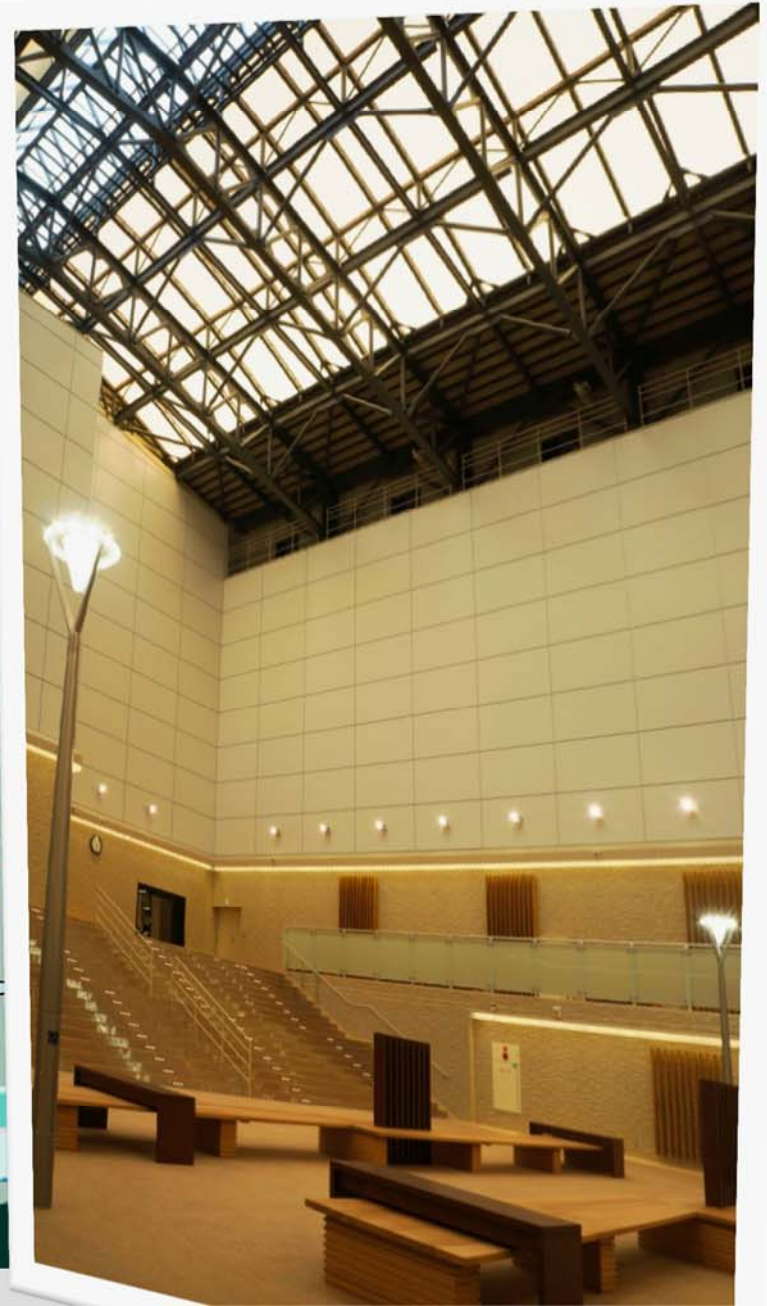
主な利用者：院生・学部生・教員

周辺部局：

文・法・経・教育学部
農・理学部
事務局



各部局図書室



1-1. 北大のラーニング・コモンズ まだまだ何か足りない

- 本館再生事業（増改築） H24年度完了
- しかしラーニング・コモンズとしては・・・
 - 人的支援がない
 - 学術的な交流の場ではまだない
- 北図書館増築H24年度補正
 - これからラーニング・コモンズを構築
- 足りない部分を補う
- これから造る

→ 連携の必要性



1-2. 北大図書館の連携事例

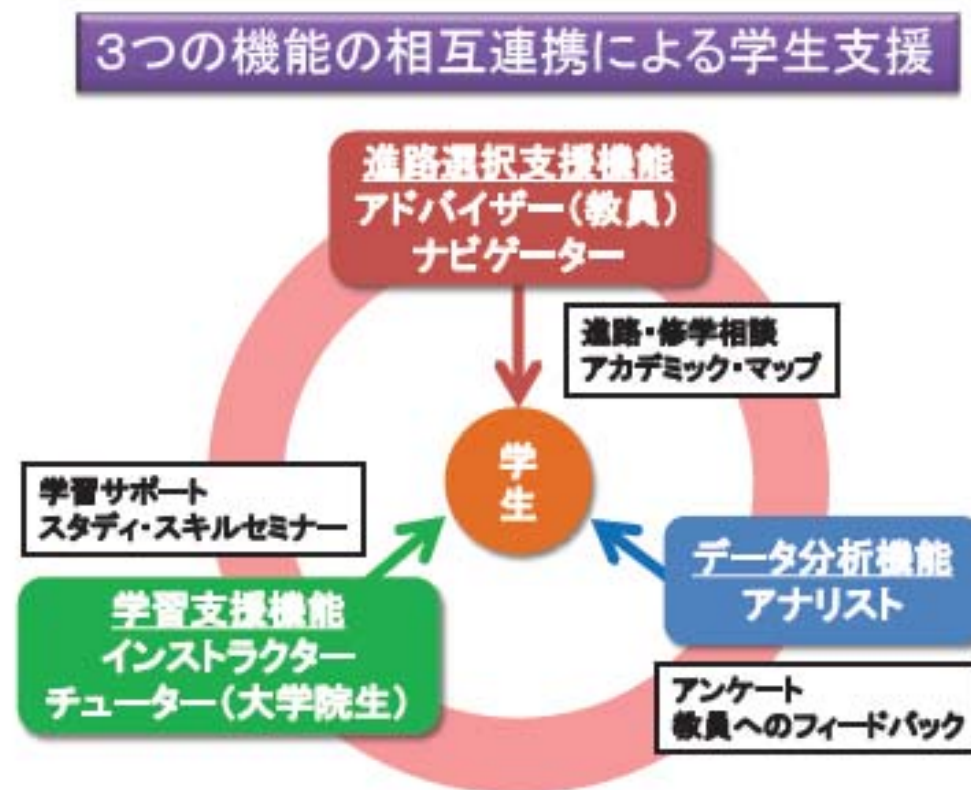
(1) アカデミック・サポート・センター(ASC) (学習支援の拠点)

平成22年10月発足

・主に総合入試で入学した初年次生の進路選択や学習支援を目的に発足。

構成員：

- ・アドバイザー(教員)
- ・分野ごとのナビゲーター(進路相談)
- ・インストラクター(学習サポート)
(いずれも特定専門職員)
- ・チューター(大学院生)
- ・アナリスト(特定専門職員)
- ・学内の教育学修の拠点である高等教育推進機構の教育支援部門に属する。



「アカデミック・サポートセンターニュース」
2011年7月号より



北海道大学

1-2. 北大図書館の連携事例

(1) アカデミック・サポート・センター(ASC)

2012年度ASC利用状況

表 年度別ASC利用人数(2月28日時点)

年度	2011	2012 (年増加率)
進路・修学相談	446	559 (25%; 暫定)
学習サポート	2228	2577 (16%)
スキルセミナー	81	158 (95%)

*延べ人数

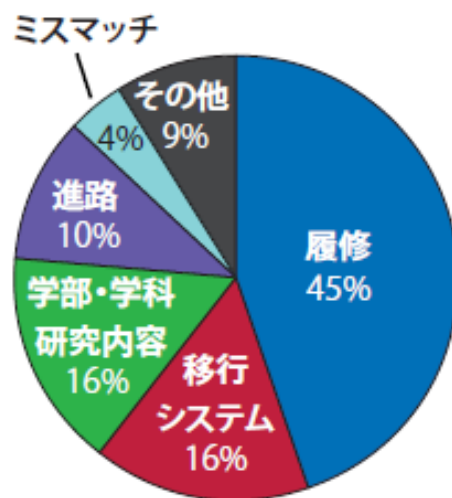


図1 進路・修学相談内容

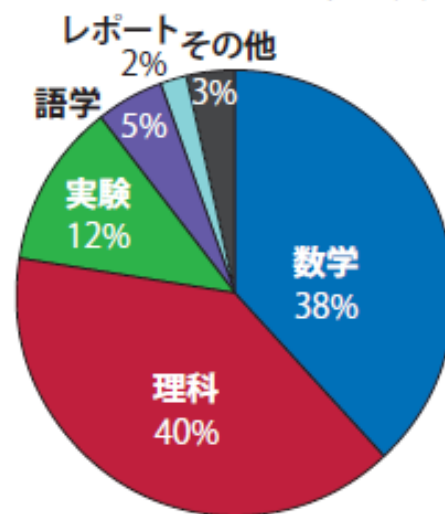


図2 学習サポート相談内容

活動内容:

1. 個別学習サポート
(進路・修学相談／学習サポート)
2. スタディスキルセミナー
(ノートの取り方、レポートの書き方セミナー)
3. 英語コミュニケーション
(留学生チューターとの会話で英語コミュニケーション力向上支援)
4. 「アカデミック・マップ」の作成(総合入試枠学生のための学部選択支援)

1-2. 北大図書館の連携事例

(1) アカデミック・サポート・センター(ASC)

H24年～ アカサポ+全学のリテラシー担当者との情報交換会 月1回開催
「スキルアップセミナー」の共同開催 6回 57名
H25年～ 「英語コミュニケーション」を北図書館で開催
「スキルアップセミナー」を本館オープンエリアで開催 12回



第1回スキルアップセミナー
@本館リテラシールーム
2012.10



第3回スキルアップセミナー
@本館オープンエリア2013.6

英語コミュニケーション
@北図書館グループ学習室
2013.6
ASC英語コミュニケーション」HPより



北海道大学

1-2. 北大図書館の連携事例

(2) 新渡戸カレッジ（グローバル人材育成の拠点）

H25年4月発足

・文部科学省「グローバル人材育成推進事業（タイプA 全学推進型）採択

大学全体でその達成を目指す。国内大学のグローバル化を先導する大学として他大学に貢献する取り組みの実施が求められる。

・1学年(2500名)の中から、200名を選抜し「国際社会の中で日本人としての自覚をもって生き抜くリーダー」を養成する特別プログラム。

- ・海外留学の義務付け
- ・留学支援英語の必修
- ・フィールド型体験学習
- ・日本文化・社会の理解促進
- ・先輩社会人（新渡戸フェロー）、産業界との連携強化

- ・学務部が事務を掌る。
- ・留学生担当である国際本部とも連携

「新渡戸カレッジ」の特徴



新渡戸カレッジのカリキュラム



新渡戸カレッジHPより



北海道大学

1-2. 北大図書館の連携事例

(2) 新渡戸カレッジ 応援プロジェクト[学内学生支援部署の集結]

2) 講演会の開催

新渡戸カレッジだけでなく、国際本部、キャリアセンター、
アカデミック・サポートセンターの後援により全学的なイベントへ



講演会

「世界で働く」

2013年
10/30 (Wed)
18:30-19:30
[18:15 開場]

元UNCRD
(国連地域開発センター)
正木幹生先生
北海道大学国際本部

元WHO
(世界保健機関)
玉城英彦先生
北海道大学国際本部

附属図書館新渡戸カレッジ応援イベント

世界を舞台に働くためにはどのような学生生活を送るべきか、グローバルに活躍するために必要なことは？国際機関で勤務経験のある二人の講師に、ご自身のリアルな経験をお話いただきます。講師と北大学生を交えたパネルディスカッションも行います。これから始まるあなたのキャリア、一緒に考えてみませんか。

北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 W103
(札幌市北区北10条西7丁目)
対象者：北大学生、その他大学生、一般の方
※当日の参加も受け付けますが、なるべく事前に下記申し込み先よりお申し込みください。
参加申し込み・お問い合わせ先
<http://www.lib.hokudai.ac.jp/support/nitobe/career/seminar/>

後援：北海道大学学務部キャリアセンター・
国際本部・新渡戸カレッジオフィス



附属図書館 新渡戸カレッジ応援イベント

講演会

「世界で学ぶ」

マサチューセッツ大学アマースト校図書館から

「アメリカの大学の授業スタイルは？学生はどのように勉強している？」「アメリカの大学図書館は24時間開館？」

北大の協定校であるマサチューセッツ大学アマースト校図書館のライブラリアン、シャロン・ドマイヤーさんを講師に迎え、留学を希望する学生に対し、日米のアカデミックライフの違いや、留学前に身につけておくべきスキル・心構えについて講演していただきます。

※講演は英語で行われますが、質疑応答は英語・日本語どちらでも対応可能です。

講師 Ms. Sharon Domier
Umass Amherst
East Asian Studies Librarian

北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 W103 (札幌市北区北10条西7丁目)
対象者：北大学生・教職員、その他大学生、一般の方
※当日の参加も受け付けますが、なるべく事前に下記申し込み先よりお申し込みください。
参加申し込み・お問い合わせ先
・申し込みフォーム <http://www.lib.hokudai.ac.jp/support/nitobe/ryugaku/>
・メールアドレス inazo@lib.hokudai.ac.jp
主催：北海道大学附属図書館
後援：北海道大学 国際本部、新渡戸カレッジ、アカデミック・サポートセンター

後援：北海道大学国際本部・新渡戸カレッジオフィス
アカデミック・サポートセンター



北海道大学

1-2. 北大図書館の連携事例

(2) 新渡戸カレッジ 応援プロジェクト [英語指導教員のアドバイス]

3) 「めざせ！100万語 英語多読マラソン」

4) ELT英語学習アドバイザーによる 学習サポート



附属図書館 英語学習アドバイザーイベント
Hokkaido University English Learning Tutors Pre-Event

第1回 英語多読読書会

スティーブ・ジョブズを英語で読む。

学生みなさんの英語学習を先輩たちがサポートする英語学習アドバイザーが、11月19日(火)より北図書館でスタートします。そのイベントとして、英語多読読書の読書会を開催することになりました！

テーマはアップル・コンピュータの創業家である Steve Jobs、最高の経営者、カリスマ、伝説の天才……。世界を変えたスティーブ・ジョブズの知られざる一面を英語学習アドバイザーの2人や他の参加者と一緒に読み解いていきます。

洋書にチャレンジしてみたいと思っていた方も、すでに多読マラソンに参加中の方も、初級～中級から自分のレベルにあった本を選んで楽しむことができます。みなさんのお参加をお待ちしています！

日時 2013年11月18日(月) 18:30～19:30

会場 北海道大学 北図書館 (札幌市北区北17条西8丁目) 3階グループ学習室C

定員 8名(事前申込不要・先着順)

テーマ Steve Jobs (& Steve Wozniak)

申込 不要 当日会場に直接お越し下さい

<http://www.lib.hokudai.ac.jp/support/nitobe/elt>

附属図書館 新渡戸カレッジ応援イベント 011-706-5571 inazo@lib.hokudai.ac.jp

新渡戸カレッジ応援イベント

ELT

English Learning Tutors

先輩たちが、あなたの英語学習をサポートします！

アドバイザー 王学康さん
経済学研究科博士後期課程3年
「Don't be shy, just try!」

英語学習アドバイザー、始めます。

2013.11.19(火)～
北図書館2階カウンター前
英語学習アドバイザーコーナー

学生みなさんの英語学習をサポートする。英語学習アドバイザーが図書館でスタートします！TOEIC、TOEFL等の資格試験対策や、英語レポートの書き方、英語多読の進め方など、同じノンネイティブならではの英語学習方法について、2人の留学生から個別にアドバイスを受けられます。ぜひお気軽にご利用下さい！

<http://www.lib.hokudai.ac.jp/support/nitobe/elt>

主催 / 北海道大学附属図書館
協力 / 新渡戸カレッジ、国際本部、アカデミック・サポートセンター
お問い合わせ / 附属図書館新渡戸カレッジ支援事業 WG 011-706-5571 inazo@lib.hokudai.ac.jp

新渡戸カレッジ応援イベント

ELT

English Learning Tutors

授業の課題も、資格試験対策も。

アドバイザー 藤実君さん
経済学研究科博士後期課程1年
「Let's find the best way to study English for you together!」

英語学習アドバイザー、始めます。

2013.11.19(火)～
北図書館2階カウンター前
英語学習アドバイザーコーナー

学生みなさんの英語学習をサポートする。英語学習アドバイザーが図書館でスタートします！TOEIC、TOEFL等の資格試験対策や、英語レポートの書き方、英語多読の進め方など、同じノンネイティブならではの英語学習方法について、2人の留学生から個別にアドバイスを受けられます。ぜひお気軽にご利用下さい！

<http://www.lib.hokudai.ac.jp/support/nitobe/elt>

主催 / 北海道大学附属図書館
協力 / 新渡戸カレッジ、国際本部、アカデミック・サポートセンター
お問い合わせ / 附属図書館新渡戸カレッジ支援事業 WG inazo@lib.hokudai.ac.jp

5) 英語多読読書会 「スティーブ・ジョブズを英語で読む」



北海道大学

1-2. 北大図書館の連携事例

(3) URAステーション (研究支援の拠点)

「若手研究者のためのAuthor Workshop」6/11開催

H24.10発足

URAとは、研究者とともに研究活動の企画・マネージメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材を指す。

URAステーションは、学内だけでなく地域も含めた研究者支援の仕事に携わる方々に、新しいスキルの獲得や情報交換の場を提供する。

図書館とURAステーションは、H25年6月～9月に、3回のワークショップ、セミナーを開催。

若手研究者のための論文セミナー
研究支援、研究評価に関するトピックと議論の場を提供。



若手研究者のためのAuthor Workshop
～アクセプトされる論文を書くために～
Author Workshop for Young Scientists
— How to get published —

北海道大学 附属図書館・創成研究機構 URAステーション
エルゼビア・ジャーン株式会社 共催

自分の研究成果を論文で世界に向けて発信しよう！
～研究テーマ設定から国際誌への投稿まで、若手研究者向けに解説します～

日時: 2013年6月11日(火) 13:00-16:00 (12:30開場)
場所: 北海道大学 理学部 5号館203室 大講堂
参加費無料・参加申込不要

時間	開会挨拶	登壇者
13:00-13:10	開会挨拶	寺尾室明 理学研究部長
13:10-13:40	デジタル時代における 若手研究者に必要なスキル	アンダーシュ・カールソン バイス・プレジデント グローバル・アカデミック・リレーションズ エルゼビア・ジャーン(株)
13:40-14:30	Your research is a commodity, and you are the salesperson	マシュー・ヒル・ディック 理学研究部 自然科学部門 多様性生物学分野 特任教授
14:30-14:40	休憩	
14:40-15:30	初めての科学論文執筆(仮) First Writing a Scientific Paper	岩井智弘 理学研究部 化学部門 有機・生体化学分野 助教
15:30-16:00	論文執筆時のScopusの活用方法	恒吉有紀 プロダクトマネージャー エルゼビア・ジャーン(株)

6月12日(水)
Scopus利用説明会も開催
本館2階リテラシールーム
10:00-10:45
11:00-11:45
13:00-13:45

Scopus
www.scopus.com

スコopusは、世界最大規模の学術・引用データベース
世界5,000社以上の20,000タイトルを収録。MEDLINEもカバー
＜6月10日(土)までオンライン募集中＞

お問合せ
附属図書館 利用支援課 情報リテラシー担当
Tel: 011-706-4107(内線 4107)
Email: ref@lib.hokudai.ac.jp
http://www.lib.hokudai.ac.jp/

「研究支援力を高める」セミナー 7/26開催



ワークショップ
「ビブリオメトリクスと研究評価」 9/20開催



北海道大学

1-2. 北大図書館の連携事例

(4) 特別修学支援室 (障がいのある学生支援の拠点)



学び+Universal Design

特別修学支援室 in 北大祭

障がいのある学生が学修及び研究を行う上で必要な支援をします。学びのユニバーサルデザイン(人とモノを連動させた環境整備)を推進していきます。



開室日時: 7日 13時~17時、8日・9日 10時~17時 場所は裏面へ→

紹介
ビデオ

珈琲

パソコン
テイク
体験

ほっと
休憩



月1回の情報交換会から支援方法を探る

H25.4発足 「特別修学支援室」

- ・教員、コーディネーター、学務部職員、支援ボランティア学生を構成員とする。
- ・障がいのある学生の相談に応じ、教員や部局と連携して支援をコーディネートする。
- ・学務部が事務を掌る。

「修学支援懇話会」H24.4~

障がい学生の支援の方法や環境整備について情報交換を行う。月に1回、図書館で開催。

メンバーは、

特別修学支援室に関わる教職員、
障がいのある学生、
障がいのある学生を支援する学生団体
図書館職員

特に図書館では、視覚障がい等のある学生への電子書籍(読み上げ可能、タブレット端末での閲覧可能)の提供について調査検討中。



1-2. 北大図書館の連携事例

(5)FD研修会等への参加(チャンスを作る)

1. 「リサーチ・アドミニストレーター入門セミナーFY2012」

創成研究機構URAステーション主催 H24 12/13 開催

図書館職員1名参加。その後のURAとの連携のきっかけとなる。

2. 「多文化交流科目」FD研修： アクティブ・ラーニングとディベート入門

国際本部留学生センター・高等教育推進機構主催
H25 8/27開催

図書館職員1名参加。オープンエリアの広報チラシを配布し、意見交換を行う。

3. 第23回北海道大学教育ワークショップ 「授業の質保証をめざして」

高等教育推進機構主催 H25 11/8-9開催

若手教員のための授業構築ワークショップ。
図書館職員1名参加。図書館の空間・資料・サポートについて30分のレクチャーを行い、図書館機能を授業に活かすための広報と意見交換を行う。

きっかけがあれば、
相手の懐に飛び込む勇気も必要

オープンエリア広報チラシ

授業の続きは 図書館で



学生のアクティブ・ラーニングを
附属図書館が支援します
オープンエリアをおすすめください

こんなことができます»裏面へ

附属図書館 本館 2 階 オープンエリアでは従来の閲覧室とは異なり、**ディスカッションが可能!**授業の前後も学生たちはグループワークに取り組みます。

- みんなが揃ったら行ってみよう
座席は予約不要です。
授業の熱が冷めないうちに図書館へ。
- グループ編成は自由自在
勾玉型テーブルは人数に合わせて2台、3台と組み合わせられます。
- ホワイトボードで論点整理
4台のホワイトボードがあります。
さらにこんな便利使い方も。
- プロジェクタでプレゼン練習
総合カウンターでプロジェクタを借りて
ホワイトボードに投影させてプレゼンをチェック。
- ELMSの無線 LAN でインターネット
さらに京橋の座席とオープンエリア中央のリテラシールームには
合計 62 台の ELMS パソコン、プリンタもあります。
- もちろん学術書、参考書も豊富に揃っています
3~5 階および書庫には 170 万冊の蔵書。
電子情報に頼らない学習が可能です。
- 図書館職員による「文献探索ワークショップ」も
ご希望に応じた内容で、講習会「文献探索ワークショップ」を開催します。
準備のため、1 週間前までに下記のお問い合わせ先へご連絡ください。
※北図書館にも来客には同様の設備が整っています。

..... オープンエリア以外も活用ください

- 予約するならグループ学習室
4 階には 3 名以上を対象としたグループ学習室があります。1 週間前から予約を受け付けます。(北図書館にもあります。)
- 相談するなら参考調査カウンター
アクティブ・ラーニングには自発的な調査が欠かせません。平日 9~17 時に図書館職員が学生の相談をお受けします。

お問い合わせ・ご相談は (たとえばゼミや授業でオープンエリアを使ってみよう!)
附属図書館 情報リテラシー担当 内線 4107 E-Mail ref@lib.hokudai.ac.jp



北海道大学

1-2. 北大図書館の連携事例

(6) 学内から学外のチャンネル開拓へ(チャンスを広げる)

国連寄託図書館としてのイベント「STAND UP TAKE ACTION in Hokudai」

連携・協力

- ・(学内)全学行事「北海道大学サステナビリティ・ウィーク」への参加
- ・(学内)国際本部、学内学生団体(JCK北海道事務局、TICAD V)との連携
- ・(学外)国際協力機構北海道センター(JICA北海道)、札幌国際プラザ、日本国際連合協会北海道部、北海道、札幌市の後援

広報(学外)

- ・札幌市、JICA北海道、北海道庁国際課でのポスター掲示
- ・北海道庁国際課が発行するメールマガジン、札幌国際プラザのニュースレターへの掲載
- ・学生向けフリーペーパーやサイトへの掲載



参加者 63名
(うち一般市民5名)



北海道大学

2. 「連携」に必要なこと



2. 「連携」に必要なこと: 組織間の連携

(1) Win-Winの関係作りの構築

例1) ASC(アカサポ)連携

- ・ASCのメリット
 - ・広くセミナーができて集客できる場所が図書館にある
 - ・図書館のリテラシー教育のノウハウと専門性の協力を得られる
- ・図書館のメリット
 - ・ASCインストラクターの教育のノウハウと専門性の協力を得られる
 - ・ASCに相談にくる学生に図書館利用促進を計ることができる

例2) URA連携

- ・URAのメリット
 - ・広くセミナーができて集客できる場所が図書館にある
 - ・セミナーやワークショップで活動実績を重ね、支援組織としての認知度を高める
- ・図書館のメリット
 - ・URAの研究支援体制を知り人脈を開拓し、図書館の研究支援に繋げることができる



2. 「連携」に必要なこと: 組織間の連携

(2) Win-Win関係作りにやってはいけないこと



NG

- ・こちらの利益優先
- ・相手のお株を奪う

・こちらからの宣伝だけでは
協力を得られない

・先方の活動を邪魔しない
配慮が必要

・双方にとってメリットがあり
有益な提案が必要

・特色を活かし図書館ならで
は、と理解を得られる提案を



北海道大学

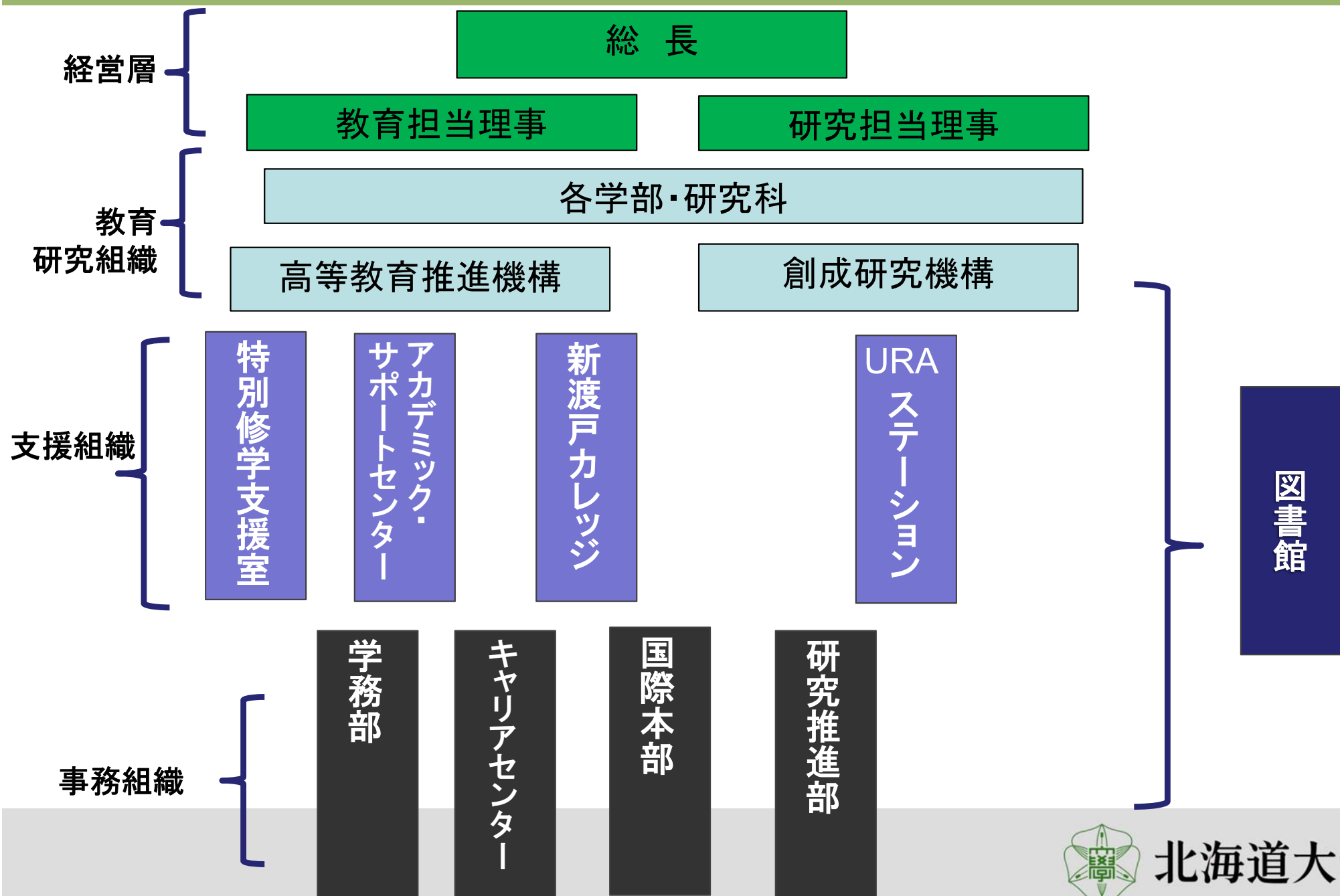
2. 「連携」に必要なこと: 大学全体として

(2) 大学の理念の確認



2. 「連携」に必要なこと

(3) 学内全体での支援へ



3. 「連携」の先にあるもの



3. 連携の先にあるもの 期待されていること

・ 学習の場

- ・ 学生たちの居場所
- ・ グループワーク・演習の場

・ 支援の場

- ・ リテラシー、語学学習支援
- ・ 障がいのある学生への支援

・ 学びのコミュニティの場

- ・ ワークショップ、セミナー、学びのサロン

・ 情報発信の場

- ・ 成果発信、情報発信のチャンネル



3. 連携の先にあるもの 図書館独自の存在感の確立

図書館の特色・魅力

- ・誰もが利用できるオープンな空間としての魅力
- ・コンテンツを提供する場所(存在)としての魅力
- ・支援があり相談できる場所(存在)としての魅力
- ・多様な組織・人と手を組める柔軟性・独自性

特色・魅力を活かした**存在感の確立**
→ **大学にとっても重要な存在へ**



3. 連携の先にあるもの 期待に応える図書館へ(むすび)

連携先として信頼される存在になるために
必要な**3つ**のこと

1. 組織として互いに信頼できる関係を築くこと
2. さまざまな要望や情報要求に応じてコーディネート
できること
3. 学生や教職員の相談に応じられる専門性を磨くこと



ご清聴ありがとうございました。



hisuzuki@lib.hokudai.ac.jp